Patrick DSP の TR-1000 早見表

目次

基本とファイル
はじめに：全体像 | パネルと接続 | 構成 | データの基本操作 | 知っておきたいメニュー設定 | トランスポートとテンポ | ファイル、バックアップ、ユーティリティー | ショートカット・キー
シーケンス
シーケンサー早見表 | パターン | バリエーション | フィル・イン | ステップ・レコーディング（TR-REC） | リアルタイム演奏とレコーディング（INST PLAY / INST REC） | メロディーの演奏（KEYBOARD） | Motion | ソング・モード
音作り
キットの編集 | インストの編集
サンプリング
サンプリング | サンプリングの応用 | サンプルをトラックに割り当てる | サンプルの編集 | サンプル・スロットを最適化する（SMP SLOT） | SAMPLE GEN を設定する | スライス
演奏と MIDI
演奏機能 | 同期と外部オーディオ | MIDI

はじめに：全体像

↑ 目次

最初にお読みください。TR-1000 とは何か、音がどのように作られるか、プロジェクト、キット、パターン、ソングがどうつながるかを説明します。

TR-1000 とは

TR-1000 は、ステップ・シーケンサーと 10 トラックを備えた Roland のリズム・マシンです。各トラックは、ジェネレーター、フィルター、アンプ、コンプレッサー、エフェクトで構成されるインストを鳴らします。サンプラー、リバーブ、ディレイ、マスター・エフェクト、アナログ・エフェクトも搭載しています

トラック： `BD`（バス・ドラム）、`SD`（スネア・ドラム）、`LT`（ロー・タム）、`HT`（ハイ・タム）、`RS`（リム・ショット）、`HC`（ハンド・クラップ）、`CH`（クローズ・ハイハット）、`OH`（オープン・ハイハット）、`CC`（クラッシュ・シンバル）、`RC`（ライド・シンバル）

レイヤー・トラック： `BD`、`SD`、`LT`、`HT` には、レイヤー A とレイヤー B の 2 つの音源部があり、それぞれ独自のジェネレーター、フィルター、アンプを持ちます。2 つのレイヤーは同時に鳴ります

シングル・トラック： `RS`、`HC`、`CH`、`OH`、`CC`、`RC` には音源部が 1 つあります。これらのトラックでは LAYER B で別の音（ALT `INST`）を入力します

演奏する内容はすべてパターンに入ります。パターンはキットのインストを鳴らします

ジェネレーター（GEN）

`GEN`（ジェネレーター）はトラックの音源です。OFF にするとトラックは鳴りません

アナログ：本物のアナログ回路による 16 の音。TR-808 と TR-909 の回路を再現し、新しいコントロールを加えています

ACB：Analog Circuit Behavior、アナログ部品のモデリング。アナログ回路の挙動を再現し、デジタル技術で拡張しています

FM：周波数変調による音で、明るくダイナミックなキャラクターです。モデルごとに独自のパラメーターがあります

PCM：多数のプリセット・サンプル。PCM はパルス符号変調の略で、デジタル録音された音のことです

サンプル：自分で録音した音。ループやピッチの設定ができます

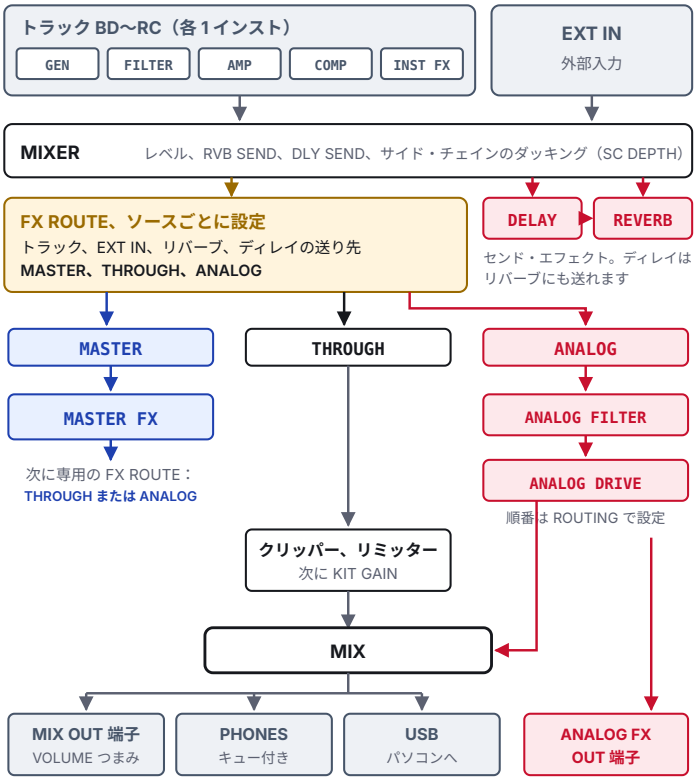
信号の流れ

各レイヤーは、ジェネレーター、フィルター、アンプを通ります。その後、トラックはコンプレッサーとインスト・エフェクトを通ります

次にミキサーが各トラックを、マスター・エフェクト（MASTER）、アナログ・エフェクト（ANALOG）、または出力に直接（THROUGH）送ります

外部入力（EXT IN）も同じミキサーを通るので、エフェクト、サイド・チェイン、サンプラーを使えます

MIX OUT からミックスが出力されます。各トラックに個別の出力を持たせることもでき、アナログ・エフェクトにも専用の出力があります



データの構成

プロジェクト：128 キット、128 パターン、インスト、ソングをひとまとめに管理します。本体には 16 プロジェクトを保存できます

パターン：16 × 8 バンク、合計 128。各パターンには 8 つのバリエーション（A〜H）と 4 つのフィル・インがあり、それぞれ 10 トラックを持ちます

キット：10 のインストと、リバーブ、ディレイ、マスター・エフェクトの設定。プロジェクトごとに 128 キット。パターンは、関連付けられたキットを鳴らします

インスト：トラックのすべての設定（ジェネレーター、フィルター、アンプ、コンプレッサー、エフェクト、モジュレーション）。インスト・バンクに保存し、どのキットにも呼び出せます

ソング：プロジェクトごとに 16。ソングは複数のパターンをつないで順に再生するもので、バリエーションの順番、繰り返し回数、テンポを含みます

`MOTION`：つまみやボタンの動きを記録したもので、パターンと一緒に保存されます。DAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）のオートメーションと同じように働きます



基本操作

トラック・ボタン `BD`〜`RC` でトラックを選びます。画面の下にある `C1`〜`C6` /VALUE つまみで編集します。矢印ボタンでページを切り替えます

`SHIFT` を押しながら別のボタンを押すと、そのボタンの設定画面が開きます

編集中のパターンとキットは、電源を切るまでメモリーに残ります。残しておくには先に保存します。`SHIFT` + `COPY` › `OVERWRITE` でパターンとキットを一緒に保存します。編集中のパターンとキットにはアスタリスクが付きます

パターンは常にキットを参照するので、パターンを切り替えるたびにキットも切り替わります（「トランスポートとテンポ」を参照）

ファームウェアのバージョン

バージョンを確認する：`MENU` › UTILITY › INFO

USB メモリーからアップデートする：TR-1000 で USB メモリー（64 GB 以下）をフォーマットし、ルートに TR1000_UPDATER.bin をコピーすると、`MENU` › UTILITY › INFO に Update available と表示されます。アップデートには約 3 分かかります。アップデート中は絶対に電源を切らないでください

アップデートの前に USB へバックアップします：`MENU` › FILE › BACKUP（約 20 分）

TR-1000 アプリでもアップデートできます

1.20： MOD MODE と S&H、909 と 808 Bass Line、4 つの新しい MFX タイプ、8X Crash Cymbal と 8X Hand Clap の Mute Trigger、Roll 1st Note、トラックごとに 1 チャンネルの MIDI MODE、MIDI でのスライス、`AMP` GAIN の上限アップ、Mix Out Gain と USB Out Bst 1.20

1.50： ステップごとの NOTE と KEYBOARD 演奏モード、Keep Efx and ExtIn、MIX ONLY 出力、アナログ・エフェクトのルーティング、新しいエフェクト、50 の FM インスト、FM の COARSE、新しい MOD 先、Ptn Select Mode、Sample Level Adjust、Auto Track Select、新しい画面 1.50

このシートの用語と略語

ACB： Analog Circuit Behavior（アナログ部品のモデリング）

AFX： アナログ・エフェクト（フィルターとドライブ）

ALT `INST`： シングル・トラックの別のインスト音

BPM： 1 分あたりの拍数（テンポ）

`CC`： コントロール・チェンジ（MIDI メッセージの一種）

CV： コントロール・ボルテージ、アナログの制御信号

DIN sync： 古い機器向けの同期信号。Deutsches Institut für Normung（DIN）はドイツの規格団体です

EXT IN： 外部入力

FM： 周波数変調

`GEN`： ジェネレーター（音源）

IFX： インスト・エフェクト

`INST`： インスト

LFO： 低周波オシレーター。パラメーターを変化させるゆっくりした波形です（MOD 画面）

MFX： マスター・エフェクト

MIDI： Musical Instrument Digital Interface

PCM： パルス符号変調（デジタル録音された音）

USB： Universal Serial Bus

パネルと接続

↑ 目次

各ボタン、つまみ、端子の役割や、電源の入れかた、USB メモリーのフォーマットを知りたいときにお読みください。

パネルのボタン

ボタン	押す	SHIFT と同時
`ACCENT (STEP)`	ステップにアクセントを入力。エフェクトのモーションの編集にも使います	
`AMP`	アンプの設定	コンプレッサー（COMP）
`ANALOG FX (ON)`	アナログ・エフェクトのオン／オフ	アナログ・エフェクトの編集（EDIT）
`矢印ボタン（左右）`	ページの切り替え	設定中の値を下げる／上げる（DEC/INC）
`CLEAR`	トラック、バリエーション、パターンの消去	
`COPY`	パターン、キットなどのデータのコピー	パターン、キット、システム設定の保存（WRITE）
`ENTER`	メニューの選択を確定、または操作を実行	
`EXIT`	1 つ前の画面に戻る、またはキャンセル	キットやパターンを初期値にする（INIT）
`FILL IN TRIG`	フィル・インを演奏	フィル・インの設定（EDIT）
`FILTER`	フィルターの設定	モジュレーション（MOD）
`FX`	インスト・エフェクトの設定	ミキサー（MIXER）
`GEN`	ジェネレーターの設定	ジェネレーターを選ぶ（SELECT）
`INST`	インストを選ぶ	呼び出したインストの情報を表示（INFO）
`INST PLAY`	ステップ・キー 1〜10 でトラックを演奏。ステップ・キー 13〜16 で演奏モードを選ぶ	演奏モードの設定（PLAY MODE）
`INST REC`	リアルタイム・レコーディング	クオンタイズの設定（QUANTIZE）
`KIT`	キットを選ぶ	キットの設定（EDIT）
`KNOB ASSIGN`	各トラックの CTRL つまみにパラメーターを割り当て	
`LAST`	パターンやトラックの長さを設定	
`LAYER A と B`	記録や編集をするレイヤーを選ぶ	
`MASTER FX (ON)`	マスター・エフェクトのオン／オフ	マスター・エフェクトの編集（EDIT）

ボタン	押す	SHIFT と同時
MENU	設定、ユーティリティー、初期化	キットやパターンを保存した状態に戻す（RELOAD）
MORPH（ボタン）	モーフのオン／オフ	モーフの設定（EDIT）
MOTION（ON）	記録したモーションを再生	記録したモーションを消去（ERASE）
MOTION（REC）	モーションを記録	
MUTE	選んだトラックをミュート	選んだトラックをヘッドホンだけに送る（CUE）
PTN SELECT	パターンを選ぶ	パターンの設定（SETTING）
SAMPLE	サンプリング	サンプル・エディター（EDIT）
SONG	ソング・モード	ソングの編集（EDIT）
START	パターンを再生	最初のステップから再生し直す（RESTART）
ステップ・キー 1〜16	ステップの入力、パターンやソングの選択	弱音ステップを入力（WEAK VELOCITY）
STEP LOOP	ステップや範囲をループ	
STOP/CONT	停止。もう一度押すと停止した位置から再開	自然に止まらないジェネレーターの音を止める（ALL SOUND OFF）
SUB	2 連、3 連、4 連などのサブ・ステップを入力	
TEMPO	テンポ画面	タップ・テンポ（TAP）。3 回以上押す
TR-REC	ステップ・レコーディング	
トラック・ボタン BD〜RC	記録や編集をするトラックを選ぶ	トラックの設定（EDIT）
VARI CHAIN	バリエーション・チェインのオン／オフ	
VARIATION A〜H	バリエーションを選ぶ	

つまみ、フェーダー、スライダー

ACCENT LEVEL：アクセントの音量

ANALOG FX FILTER **と DRIVE：**アナログ・エフェクトのカットオフと歪み

C1 **〜** C6 **/VALUE：**画面に表示されたパラメーターを調節します。C3 は SCROLL、C6 は VALUE としても働きます

CTRL 1-3：KNOB ASSIGN で選んだパラメーター

EXT IN：EXTERNAL IN 端子の入力レベル

レベル・フェーダー：BD 〜 RC のインストの音量

MASTER FX **CTRL 1-3：**マスター・エフェクトのかかり具合

MIX：レイヤー A とレイヤー B のバランス

MORPH **スライダー：**保存したモーフ設定を適用します

PHONES VOLUME：ヘッドホン端子の音量

REVERB LEVEL と TIME、DELAY LEVEL、TIME、FEEDBACK：リバーブとディレイの設定

TUNE と DECAY：選んだインストの音程と減衰時間

VOLUME：MIX OUT 端子の音量。INDIVIDUAL OUT 端子と ANALOG FX OUT 端子には影響しません

画面とキー

画面には操作に応じた情報が表示されます

ステップ・キー 1〜16：ステップの入力や、パターン、ソングなどの選択

START **と STOP/CONT：**再生と停止

リア・パネルの接続

AC IN と電源スイッチ：付属の電源コードを使います。完全に電源を切るには電源コードを抜きます

USB COMPUTER：USB 3.0 Type-C to Type-C ケーブルでパソコンと接続し、演奏データとオーディオをやりとりします。先に Roland のドライバーをインストールします。充電専用ではなくデータ通信対応のケーブルを使い、フェライト・コアの付いた側をパソコンにつなぎます

USB EXTERNAL DEVICE：64 GB 以下の USB メモリー。画面に Executing と表示されている間は絶対に抜かないでください

MIDI IN、OUT 1、OUT 2/THRU：MIDI と DIN sync。OUT 2 は THRU としても使えます

PEDAL（CONTROL 端子）：エクスプレッション・ペダル EV-5、またはフット・スイッチ FS-5U か FS-6。これら以外は使わないでください

TRIGGER/CV：TRG IN はトリガー信号を受けます。TRG OUT は選んだトラックのトリガーを送ります。FILTER CV IN は最大 ±2.5 V を受け、アナログ・エフェクトのフィルターのカットオフ周波数を制御します。CLK OUT は外部機器に同期信号を送ります。ステレオではなくモノラルのミニ・プラグ・ケーブルを使います

EXTERNAL IN L/MONO 1 と R/MONO 2：ステレオ 1 組、またはモノラル 2 チャンネルとしてのオーディオ入力

INDIVIDUAL OUT/TRIGGER OUT BD 〜 RC **：**各端子からトラックの音、またはトリガー信号を出力します。アナログ音はエフェクトを通さず直接出力することもできます

MIX OUT L/MONO と R：アンプやモニターへのメイン出力

ANALOG FX **OUT L/MONO と R：**アナログ・エフェクトの直接出力

準備

接続する前に、すべての機器の音量を下げて電源を切ります

電源を入れる順番：TR-1000、次に接続した機器。そのあと接続した機器の音量を上げます

電源を切る順番：接続した機器、次に TR-1000

AUTO OFF：MENU › SYSTEM › GENERAL › Auto Off。OFF、20 min（工場出荷時）、240 min。自動で電源が切れると、保存していないデータは失われます

TR-1000 で USB メモリーをフォーマットする：MENU › UTILITY › FORMAT › ENTER › OK

主な仕様

消費電力 38 W、AUTO OFF で電源が切れたとき 0.2 W

外形寸法 486 × 311 × 125 mm、質量 5.5 kg

付属品：電源コード、取扱説明書、フェライト・コア付き USB Type-C to Type-C ケーブル

構成

↑ 目次

プロジェクト、キット、インスト、クロック・ソース、シャッフルの詳細を知りたいときにお読みください。

プロジェクト

GEN（ジェネレーター）はトラックの音源です：アナログ、ACB、FM、PCM、またはサンプル

INST（インスト）は、トラックのジェネレーター、フィルター、アンプ、コンプレッサー、インスト FX をまとめたもので、INST BANK に保存して、どのキットでも使えます

KIT は、トラックごとに 1 つ、計 10 のインストと、リバーブ、ディレイ、マスター・エフェクトの設定をまとめたものです



クロック・ソース

MENU › PROJECT › **Tempo Sync**

> **設定値：**Auto、MIDI、USB、INT
>
> Auto は MIDI IN または USB からの MIDI クロックに従います。両方ある場合は USB が優先されます
>
> INT は TR-1000 本体のテンポを使います

Sync Delay（MENU › PROJECT）：-100〜+100。パターンの開始位置をずらします。正の値で開始が早まります

シャッフル

TEMPO › シャッフル

TR-1000 シャッフル %	Cirklon ステップ（%）	SP-1200 の設定、スウィング／ディレイ	TR-909 の設定、スウィング／ディレイ
0	0 (0.00%)	**50** 49.8% / -0.4%	**S1 (イーブン)** 50.0% / 0.0%
+6	1 (6.25%)		
+12 or +13	2 (12.5%)	**54** 54.0% / 8.0%	**S2** 54.2% / 8.4%
+19	3 (18.75%)		
+25	4 (25.0%)	**58** 58.2% / 16.3%	**S3** 58.4% / 16.7%
+31	5 (31.25%)		
+37 or +38	6 (37.5%)	**63** 62.4% / 24.8%	**S4** 62.5% / 25.1%
+44	7 (43.75%)		
+50	8 (50.0%)	**67** 66.5% / 33.1%	**S5** 66.7% / 33.5%
+56	9 (56.25%)		
+62 or +63	10 (62.5%)	**71** 70.7% / 41.5%	**S6** 70.9% / 41.8%
+69	11 (68.75%)		
+75	12 (75.0%)		**S7** 75.1% / 50.2%
+81	13 (81.25%)		
+87 or +88	14 (87.5%)		
+94	15 (93.75%)		
+100	16 (100.0%)		

スウィングは、各 8 分音符の中で裏拍の 16 分音符がどこに来るかを示します（50% はイーブン、66.7% は 3 連、75% は付点）。各行は TR-1000 のシャッフル値に沿っています。イーブンが 0、TR-909 の S7（スウィング 75%）が +75 なので、TR-1000 の値 = 3 ×（スウィング % − 50）です。ディレイは、その 16 分音符がどれだけ遅れるかを、16 分の 1 ステップに対する割合で示します。網掛けの行は SP-1200 または TR-909 の設定です。網掛けの行に Cirklon のステップがない場合、TR-1000 の値はこの式で計算し、整数に丸めています。

データの基本操作 ↑ 目次

保存、保存した状態への読み込み直し、USB へのバックアップ、パターンやジェネレーターの初期化をしたいときにお読みください。

保存する

SHIFT + COPY › OVERWRITE
C6 で保存するデータを選ぶ › ENTER
C6 で保存先を選ぶ › ENTER
OK › ENTER

パターンやキットを保存した状態に戻す

SHIFT + MENU
C6 で戻すデータを選ぶ › ENTER

TR-1000 の全データを USB にバックアップする

MENU › FILE › BACKUP › DESTINATION › USB EXTERNAL › ファイル名を付ける › ENTER

パターンとジェネレーターを初期化する

SHIFT + EXIT › C6 で選ぶ › ENTER

知っておきたいメニュー設定 ↑ 目次

プロジェクト、全般、サウンド、MIDI の設定をメニューで変えたいときにお読みください。

MENU › PROJECT

Ptn Select Mode 1.50

> **Auto：**C6 /VALUE つまみで選んでいるパターンに切り替わります
>
> **Manual cursor：**C6 /VALUE でカーソルを次のパターンに移動し、ENTER で切り替えます

Auto Track Select 1.50

> **ON：**INST PLAY または INST REC で演奏した BD〜RC ボタンのトラックが自動で選ばれます

Keep Efx and ExtIn 1.50

> **ON：**キットを切り替えても GAIN、DELAY、REVERB、MFX、AFX、EXT IN の設定が引き継がれ、エフェクトや外部入力の音が途切れません
>
> ON にすると、これらの設定は次のキットにコピーされ、そのキットの設定を置き換えます

MENU › PROJECT（その他）

Tempo Source：Pattern（パターンごとにテンポを持つ）または Project（全体で 1 つのテンポ）

Normal Velocity 61-127 と Weak Velocity 1-60：TR-REC でステップを入力するときのベロシティー

Kit Select：Kit（パターンを切り替えてもキットはそのまま）または Pattern（パターンを切り替えるとそのパターンのキットを読み込む）

Fill In Trigger：Momentary（押している間だけフィル・インを演奏）または Latch（パターンの前半で押したときだけ）

Start Pattern、Start Kit、Start Song：起動時に選ばれるもの（LAST または番号）

TR-REC **Mode：**Normal（SHIFT + ステップ・キーで弱音）または Classic（ステップ・キーを押すたびに強、弱、オフが切り替わる）

Start Key：Start または Start&Stop。Stop Key：Stop&Cont、Stop、None

Track Sync：All Tracks（最も正確な同期、多少のレイテンシーあり）または Layered Gens（外部同期時のレイテンシーが少ない）

Morph Edit Mode：All Knobs または C-Knobs

Trig Out：Trig、Head、End。Sync Out Clock：1 拍あたり 1、2、3、4、6、8、12、24

Filter CV In Level：0〜100%。Filter CV In Inv.：ON で極性を反転します。FILTER CV IN 端子は最大 ±2.5 V を受け、ANALOG FX のフィルターのカットオフを制御します

MENU › PROJECT › SOUND

Ext In Gain：-INF、-60.0〜6.0 dB。Ext In Att.：外部機器の出力レベルが高いときは ON。Ext In Mode：Stereo または Mono

Mono1 Level と Mono2 Level：0〜100%。Ext In Mode が Mono のときの各チャンネルのレベル

USB Level：0〜100%。USB EXT IN チャンネルの入力レベル

Trig In（TRG IN 端子）：Sync はトリガーをクロックとして使い、Start はシーケンサーを開始と停止し、Head はパターンの先頭に戻り、Clock はトリガーごとにシーケンサーを 1 ステップ進めます

Trig In Sync Clock：トリガー入力の 1 拍あたり 1、2、3、4、6、8、12、24 の同期クロック

MENU › PROJECT › PEDAL

PEDAL 端子にエクスプレッション・ペダル（EV-5）またはフット・スイッチ（FS-5U、FS-6）をつなぎます。指定のペダルだけを使ってください

操作先、サウンド：MORPH、BD〜RC の各インストの TUNE と CTRL 1〜3、RVB LEVEL、RVB TIME、DLY LEVEL〜DLY FBK、MFX CTRL 1〜3、AFX FILTER、AFX DRIVE

操作先、コントロール：START /STOP、STOP/CONT、SHIFT、TAP TEMPO、TAP PAD、DEC PTN、INC PTN、FILL IN TRIG

DEC PTN と INC PTN：パターン停止中にペダルを踏むと、パターンが 1 つ戻るか進みます。パターン再生中は、何回踏んでも 1 回だけ切り替わります

Polarity：Normal または Inverse

MENU › SYSTEM › GENERAL

Auto Off：OFF、20 min、240 min
Saver：スクリーン・セーバーまでの時間
Sample Level Adjust 1.50

> **Auto：**インポートしたサンプルの音量が、そのプリセット・カテゴリーに合わせられます

MENU › SYSTEM › SOUND

Mix Out Gain：-14、0、+6、+12、+18 dB（+18 は新規） 1.20
Idv Out Att.（BD-RC）：ON でその個別出力を 14 dB 下げます
AFX Out Att.：OFF または ON
Phones Bst.：OFF、+6 dB、+12 dB 1.20
USB Out Bst.：OFF、+6、+12、+18 dB（+18 は新規）

MENU › SYSTEM › MIDI

下記の MIDI のセクションを参照

トランスポートとテンポ

↑ 目次

再生と停止、テンポの設定やタップ入力、パターン、キット、テンポの関係を知りたいときにお読みください。

再生と停止

START でパターンを先頭から再生します
STOP/CONT で停止し、もう一度押すと停止した位置から再開します
SHIFT + START でパターンをすぐに頭から再生し直します（外部機器との同期に便利）
SHIFT + STOP/CONT で長いサンプルをすぐに止めます
再生中に別のパターンを選ぶ：そのステップ・キーが点滅し、今のパターンが終わると始まります

テンポ画面

TEMPO › C1 SHUFFLE（-100〜+100）
C2 TEMPO（40〜300）
C3 テンポの微調整（0.00〜0.99）
ENTER で Tempo Source を PATTERN と PROJECT で切り替えます
画面に大きな BPM 表示とナッジ表示が出ます 1.50
左右の矢印ボタン：NUDGE（-100〜+100）。パターン全体の再生タイミングをずらします
ナッジを保持するには、プロジェクトの設定で Sync Delay を設定します

タップ・テンポ

SHIFT + TEMPO を 3 回以上押します。押した間隔の平均がテンポになります

パターン、キット、テンポの関係

パターンは常にキットを参照するので、パターンを切り替えるたびにキットも切り替わります。キットが切り替わると、すべての音源の音が止まります
パターンをまたいで同じキットを使うには、KIT Ref SW を OFF にします（パターンの設定）
パターンをまたいで同じテンポを使うには、Tempo Source を Project にします

ファイル、バックアップ、ユーティリティー

↑ 目次

エクスポートやインポート、バックアップ、工場出荷時の状態に戻す、キャリブレーション、ファームウェアの確認をしたいときにお読みください。

プロジェクトをエクスポートする

USB EXTERNAL DEVICE ポートに USB メモリーを差し込みます
MENU › FILE › EXPORT › ENTER でプロジェクトにチェックを付け、右矢印 › 保存先 › 名前 › OK
ROLAND\TR-1000\EXPORT に保存されます
編集中（アスタリスク付き）のパターンとキット、保存していないシステム設定はエクスポートされません

プロジェクト、パターン、キットをインポートする

MENU › FILE › IMPORT › INTERNAL または USB EXTERNAL › ファイル
PROJECT：読み込み先のプロジェクトを選ぶ › OK
PATTERN または KIT：項目にチェックを付け、右矢印、読み込み先にチェックを付け、右矢印 › OK

バックアップとリストア

バックアップ・ファイルは ROLAND\TR-1000\BACKUP にあります
MENU › FILE › RESTORE › INTERNAL または USB EXTERNAL › ファイル › OK
編集中（アスタリスク付き）のパターンとキット、保存していないシステム設定はバックアップされません

画面に Executing と表示されている間は、絶対に電源を切ったり USB メモリーを抜いたりしないでください

工場出荷時の状態に戻す

MENU › UTILITY › FACTORY › ALL、PROJECT、SYSTEM › OK、そのあと再起動
ALL はユーザー・サンプルも消去します

アナログ音源とエフェクトをキャリブレーションする

MENU › UTILITY › CALIB › OK
保存していない編集内容は破棄されるので、先に保存します

ファームウェアのバージョンを確認する

MENU › UTILITY › INFO

USB メモリーをフォーマットする

MENU › UTILITY › FORMAT › ENTER › OK。64 GB 以下の USB メモリーを使います

TR-1000 アプリ 1.01 以降で作ったエクスポート・ファイルを送受信できます

パソコンとの接続

USB ケーブルをつなぐ前に Roland のドライバーをインストールします
TR-1000 APP は Roland Cloud Manager から入手できます

ショートカット・キー

↑ 目次

読み込み直し、初期化、コピー、クリア、編集のショートカット・キーを知りたいときにお読みください。

保存した状態に戻す

MENU + PTN SELECT、A-H、KIT、SONG、BD-RC（インストのあるトラック）、INST
MENU + つまみで、そのつまみの保存位置に戻します。MENU + C1-C6 で、割り当てたパラメーターを戻します

初期化

EXIT + GEN、FILTER、AMP、FX（インスト FX）
EXIT + C1-C6 で、割り当てたパラメーターを初期化します

コピー

COPY + PTN SELECT（パターン）、KIT（キット）、BD-RC（インストのあるトラック）、A-H（バリエーション）
レイヤー・トラックをシングル・トラックにコピーすると、レイヤー A だけがコピーされます。アナログ・インストでは、トラック情報だけがコピーされます
コピー元を選ぶときに SHIFT を押しておくと、コピー元とコピー先が入れ替わります
COPY + 1-16 で、モーションを含むステップの設定をコピーします
COPY + 1-16 で、モーフ・スロット（モーフ編集時）またはスナップショット（スナップショット演奏モード時）をコピーします
KNOB ASSIGN + 1-16（スナップショット演奏モード）で、現在のつまみの値をそのスナップショットに保存します

クリア

`CLEAR` + 1-16：パターン（`PTN SELECT` 時）、スナップショット（スナップショット演奏モード）、モーフ・スロット（モーフ編集）

`CLEAR` + A-H（バリエーション）、`BD-RC`（トラック）、`KNOB ASSIGN`（選んだトラックのつまみの割り当て）

`CLEAR` + `MOTION (ON)` でパターン内のすべてのモーションを消去、`CLEAR` + つまみでそのつまみのモーションを消去します

`CLEAR` + `MUTE` ですべてのミュートを解除、`SHIFT` + `CLEAR` でノートをリアルタイムに消去します

編集

`BD-RC` + `REVERB (LEVEL)` または `DELAY (LEVEL)`：センド・レベル

`TR-REC` で 1-16 + `ACCENT (LEVEL)`：ステップのベロシティー

`MORPH` + 1-16：モーフ・スロットを選ぶ

シーケンサー早見表 ↑ 目次

欲しい結果はわかっていて、それに合うシーケンサーの機能を探すときにお読みください。

やりたいことと機能

普通の音： `TR-REC` でステップ・キー

弱い音： 弱音ステップ。`SHIFT` + ステップ・キー（`TR-REC` Mode Normal）、またはステップ・キーをもう一度押す（`TR-REC` Mode Classic）

強い音： `ACCENT (STEP)` と `ACCENT (LEVEL)` つまみ

1 ステップ内のロールやフラム： `SUB`、またはステップ編集の SUBSTEP

ときどきだけ鳴る音： ステップ編集の PROB、またはパターン全体の MASTER PROBABILITY

特定の周回だけ鳴る音： ステップ編集の CYCLE

少し早い、または遅い音： ステップ編集の `START`、またはトラック全体ならトラックの設定の `START`

1 つの音だけ別の音色： レイヤー A または B のステップ、別の音（ALT `INST`）、スライス・ステップ

1 トラックでメロディー： ステップごとの NOTE、または KEYBOARD 演奏モード 1.50

1 ステップだけつまみを動かす： そのステップのモーション。パターン全体でつまみを動かす：`MOTION (REC)`

長いパターンに対して短いトラック： 1 トラックの `LAST`

長いパターン： バリエーション・チェイン

好きなときにブレイクや変化： `FILL IN TRIG`。一定間隔で：自動フィル・イン

スウィング： テンポ画面、トラックの設定、パターンの設定のシャッフル

曲全体： ソング・モード

パターン ↑ 目次

パターンの選択、コピー、クリアをしたいときにお読みください。

操作

パターンを選ぶ

> `PTN SELECT` **を押しながらステップ・キー 1-8**
>
> バンクを選びます。次にパターンを選びます
>
> `PTN SELECT`
>
> ステップ・キー
>
> VALUE つまみ
>
> 矢印キー

複数のパターンを再生する

> `PTN SELECT`
>
> `STEP` を 1 つ押したまま、後ろの `STEP` を押します
>
> その範囲のパターンが順に再生されます

パターンを消去する

> `PTN SELECT` › `CLEAR` + `STEP`

トラックを消去する

> `CLEAR` + トラック・ボタン `BD`〜`RC`
>
> NOTE と MOTION のデータが消去され、トラックの設定は残ります

パターンをコピーする

> `COPY` › PATTERN › コピー元 › コピー先 › OK
>
> コピー画面で右矢印を押すと、別のプロジェクトからデータを選べます（キット付きパターン、パターン、キット）

トラックの設定

> `SHIFT` + トラック・ボタン、またはトラック・ボタンを長押し
>
> **Direction（`C1`）**
>
> FWD、BWD、P-P（順方向のあと逆方向）
>
> **R-L（1 つおきに順方向：**2 1 4 3 ...）、L-R（1 つおきに逆方向）
>
> RND（ランダム）、DNK（ランダム、隣のステップのみ）、DNK2（DNK と同じで繰り返しなし）
>
> **Rotate（`C4`）**
>
> パターンを前後にずらします。-8〜+8
>
> **Start（`C5`）**
>
> ステップのタイミングを細かく調節します。-50〜+50
>
> **Shuffle（`C6`）**
>
> トラックごとのシャッフルを調節します。TEMPO の Master Shuffle で増減します。-100〜+100

パターンの設定

> `SHIFT` + `PTN SELECT`
>
> **Pattern Gain**
>
> 出力レベル。このパターンをほかのパターンとそろえます
>
> **Scale**
>
> **音符の分解能：**8th(T)、16th(T)、16th、32nd
>
> 3 連のスケールに切り替えたら、`LAST` `STEP` も調節します
>
> **Shuffle**
>
> Pattern Level
>
> Accent Volume
>
> Accent Depth
>
> **Master Probability**
>
> パターン内のすべてのステップに適用されます
>
> **Flam Space**
>
> *フラムの音と音の間隔を設定します。0〜8*
>
> `KIT` **Ref SW**
>
> ON にすると、パターンが自分のキットを読み込みます

バリエーション ↑ 目次

バリエーションの選択、コピー、消去、チェイン、ラスト・ステップの設定をしたいときにお読みください。

バリエーションを選ぶ

A-H `VARIATION` ボタン

バリエーションを消去する

`CLEAR` + `VARIATION`

バリエーションをコピーする

`COPY` › `VARIATION` › コピー元 › コピー先 › OK

バリエーションの長さを変える

`LAST` *でバリエーションや 1 トラックの長さを設定します*

`LAST` › `VARIATION` › `STEP`

`SHIFT` + `STEP` では最初のステップを設定します

複数の `VARIATION` ボタンを押さえると、まとめて変更できます

1 つのバリエーションは最大 16 ステップです。それより長いパターンにはバリエーション・チェインを使います

トラックの長さを変える

`LAST` › `TRACK` › `STEP`

トラックを選んでいないときは、OFF と表示されたトラック（MULTI）に適用されます

トラックのラスト・ステップ設定を解除する：`LAST` › `CLEAR` + トラック・ボタン

バリエーション・チェイン

`VARI CHAIN` *で複数のバリエーションを順に再生します*

作成

> `VARIATION` ボタンを同時に押します
>
> 選んだバリエーションがチェインとして再生されます

解除

> `VARI CHAIN`
>
> 再生中に解除すると、1 つのバリエーションがループし、記憶されたチェインは消去されます

チェイン再生中

> `TR-REC` + チェイン内のバリエーションで、そのバリエーションをその場で編集できます
>
> チェイン外のバリエーションを押すと、そのバリエーションを再生します。チェイン内のバリエーションを押すと戻ります

各パターンに 1 つのチェインを記憶できます（WRITE）

再生していないバリエーションを打ち込む

`TR-REC` + `VARIATION`：対象が赤く点灯し、再生中のものは白のままです

1 パターン：最大 16 ステップのバリエーション 8 つ



VARI CHAIN：最大 8 × 16 = 128 ステップ、16 分音符で 8 小節

チェインはパターンごとに 1 つ保存（WRITE）

短いバリエーション：FIRST STEP と LAST STEP



ステップ 13〜16 は飛ばす　　LAST STEP = 12

さらにフィル・イン 4 つ

`FILL 1` `FILL 2` `FILL 3` `FILL 4`　好きなときに演奏 FILL IN TRIG で、または自動で

8 小節より長い場合

最大 16 パターンをつなぐか、ソングを作ります

パターン 1 ▶ パターン 2 ▶ パターン 3 ▶ パターン 4 …

フィル・イン

↑ 目次

自動または手動のフィル・インや、フィル・インのステップ・レコーディングをしたいときにお読みください。

自動フィル・イン（一定間隔で）

`FILL IN TRIG` *で、フィル・インのバリエーションを好きなときに、または設定した間隔で自動的に演奏します*

`SHIFT` + `FILL IN TRIG`

- `C1` でフィル・インを選ぶ（FILL1-4 またはバリエーション A-H）
- `C2` で AUTO FILL IN をオン
- `C3` でフィル・インの間の小節数を設定（2、4、8、12、16、32）

手動フィル・イン

自動フィル・インと同じようにフィル・インを選びます

`FILL IN TRIG` で好きなときにフィル・インを演奏します

フィル・インをステップ・レコーディングする

`SHIFT` + `FILL IN TRIG`

- `C4` で最初のステップを設定
- `C5` で最後のステップを設定
- `C6` で編集するフィル・インを選ぶ

編集中にフィル・インをループさせる（PREVIEW MODE）

`SHIFT` + `FILL IN TRIG` › `ENTER`

`ENTER` でプレビュー・モードを終了

ステップ・レコーディング（TR-REC）

↑ 目次

ベロシティー、サンプルのスライス、ノートを含めて、ステップを 1 つずつ入力、編集したいときにお読みください。

ステップを入力する

標準ベロシティーのステップ

> `VARIATION` を選ぶ
>
> `TRACK` › `STEPS`

レイヤー A または B のステップ（トラック 1-4）、または別の音（トラック 5-10）

> A または B + `STEPS`
>
> `AMP` のあと、矢印ボタンでレイヤーのレベルとバランスが表示されます

弱音ステップ

> `SHIFT` + `STEPS`
>
> ベロシティーはプロジェクトの設定の Normal Velocity と Weak Velocity で決まります

サブ・ステップ

> `SUB` *でステップを、2 連、3 連、4 連、フラムなどのサブ・ステップに分割します*
>
> `SUB` + `C6` で分割数を選ぶ
>
> `STEP` でサブ・ステップを追加

アクセント・ステップ

> *ACCENT は音量を強めるステップを指定し、LEVEL つまみでその強さを設定します*
>
> `ACCENT (STEP)` › `STEPS`
>
> `ACCENT (LEVEL)` つまみでアクセントの音量を設定

ステップを編集する

`STEP` を押したまま `C1`-`C6` を回します

> ベロシティー
>
> Start（タイミングをずらす）
>
> Substep（ロール）
>
> **確率**
>
> > *値を下げるとステップが鳴る頻度が減ります*
>
> **Cycle：**ステップが鳴る周回を設定します（下記参照）
>
> `C6` で NOTE を設定 1.50（下記「メロディーの演奏」を参照）

CYCLE のしくみ

CYCLE はステップを追加も削除もしません。既存のステップが、パターンの何回目の繰り返しで鳴るかを自動で決めます。

例：ステップ 13 にスネアがある 1 小節のパターン。パターンは 1 小節ずつループします：

> **1/1（初期値）：**スネアは毎小節鳴ります
>
> **2/2：**2、4、6、8 小節目、以降同様
>
> **1/3：**1、4、7 小節目、以降同様
>
> **5/8：**5 小節目のみ、次は 13、21 小節目、以降同様
>
> **1st Only：**START 後の最初の 1 小節だけ

A/B：B 回の繰り返しのうち A 回目にステップが鳴ります。ほかのステップは通常どおり鳴ります。設定するには、ステップ・キーを押したまま `C5` を回します。

トラックを消去する

> `CLEAR` + トラック・ボタン `BD`〜`RC`

ステップを個別に消去する

> トラック再生中に `TRACK` › `SHIFT` + `CLEAR`

サンプルのスライス・ステップを編集する

切り刻んだブレイクを 1 トラックで、ステップごとに別のスライスで鳴らします

> `GEN` が `SAMPLE` で SLICE MODE が ON のときだけ使えます

`STEP` + `C6` でスライスを選ぶ

NOTE の値を編集する 1.50

`TR-REC` › `STEP` を長押し › `STEP` を押したまま `C6` で NOTE を設定

> -24〜+24 半音。`GEN` の TUNE と COARSE の音程が NOTE = 0 です

> 「---」は前のステップの NOTE を引き継ぎます
>> NOTE と COARSE の合計がジェネレーターの音域を超えると、音程が 1 オクターブ下がるか上がります

一部のジェネレーターと、SLICE がオンの `SAMPLE` ジェネレーターは NOTE に対応していません

レイヤー・トラックでは NOTE をレイヤーごとにオン／オフできますが、両方のレイヤーに同じ NOTE 値が入ります

トラックの NOTE データをすべて消去する

> `CLEAR` + `INST PLAY` + `TRACK`
>> バリエーション・チェイン再生中は、チェイン内のすべてのバリエーションの NOTE データが消去されます

リアルタイム演奏とレコーディング（INST PLAY / INST REC）

↑ 目次

トラックのライブ演奏、リアルタイム・レコーディング、クオンタイズ、ロールのレコーディングをしたいときにお読みください。

トラックをリアルタイムで演奏する

`INST PLAY`

トラックをリアルタイム・レコーディングする

`INST REC` › `VARIATION` で選ぶ › `START` › `STEPS` で演奏

クオンタイズ

レコーディング中に `SHIFT` + `INST REC` でクオンタイズをオン／オフします

サブ・ステップ、弱音、レイヤー別の音をレコーディングする

`TR-REC` と同じです

別の音をレコーディングする

`LAYER B` またはトラック・ボタン `RS`〜`RC` を押したまま、ステップ・キー 5-10 を押します

ロールをレコーディングする

`ROLL X1` で 16 分、`ROLL X2` で 32 分、両方同時で 64 分のロールになります

Play Mode が INST のとき、`ROLL X1` または `ROLL X2`（64 分は両方）を押したまま、ステップ・キー 1-10 を押します

ロールを保持する

> `INST PLAY` を押したまま `STEP` 1-10 または `ROLL X1` / X2 を押すと固定されます
>> 止めるには `ROLL X1` または X2 をもう一度押します

`ROLL X1` + `ROLL X2` 同時で 64 分音符。Play Mode の設定の Roll X4 Speed で Normal か Triplet を選びます

Roll 1st Note 1.20

> `SHIFT` + `INST PLAY` › `C3` で Roll 1st Note を選ぶ（PlayMode = `INST` のとき表示）
>> **Immediate：**ステップ・キーを押した瞬間に発音します
>> **Quantized：**ロールのサブ・ステップにクオンタイズされます

Play Mode

`SHIFT` + `INST PLAY` › `C3` ですべての設定

`INST PLAY` + `STEPS` 13-16 でモードをすばやく選ぶ

モード

> **Instrument**
>> `STEPS` 1-10 で `BD-RC` を演奏
>> **Play Velocity：**1-127、`MORPH`（スライダーで設定）、`TR-REC` DEF
>
> **16 velocity**
>> 1 つのインストを `STEPS` 1-16 に割り当て、キーごとに 1 つのベロシティー
>> `SHIFT` + `INST PLAY`：Curve（-64〜+64）と Order（L>H または H>L）
>
> **Slice**
>> `STEPS` 1-16 でスライスを演奏（`SAMPLE` ジェネレーターのみ）
>
> **Snapshot**
>> *トラックのつまみ位置を保存、呼び出しします。トラックごとに最大 16*
>> 1 つにつき、レイヤー・トラックではつまみ位置を最大 6、シングル・トラックでは最大 3 記憶します
>> `SHIFT` + `COPY` › PATTERN でスナップショットをパターンに保存します
>> **スナップショットを作る**
>>> `STEP` を押したまま、インスト・コントロール部のつまみを回し、離します
>> **スナップショットを呼び出す**
>>> 明るく点灯している `STEP` を押します
>> **スナップショット演奏をレコーディングする**
>>> `INST REC` › `MOTION (ON)` › 明るく点灯している `STEP` で、スナップショットがモーション・データとしてシーケンサーに記録され、以前のモーションは置き換えられます
>> **スナップショットを削除する**
>>> `CLEAR` + 明るく点灯している `STEP`
>
> **Keyboard** 1.50
>> メロディーの演奏とレコーディング。下記「メロディーの演奏」を参照 1.50

メロディーの演奏（KEYBOARD）

↑ 目次

ステップ・キーで 1 つのジェネレーターのメロディーを演奏、レコーディングしたいときにお読みください。

準備

まず `GEN` の設定で NOTE SW をオンにします

ANALOG ジェネレーターと、SLICE がオンの `SAMPLE` ジェネレーターでは使えません

モードに入る

`INST PLAY` を長押しし、`INST PLAY` + トラック・ボタン `BD`-`RC` を押したままにします

KEYBOARD に対応したトラックだけが白く点灯します

演奏

`STEPS` 1-13 でスケールの音を演奏します

NOTE の範囲は、`GEN` の TUNE と COARSE の音程（NOTE = 0）を中心に -24〜+24 です

ジェネレーターの音域を超える音は 1 オクターブ下がるか上がり、黄色く点灯します

`STEP` **14：**押している間、音程を 1 オクターブ上げます

`STEP` **15 / 16：**音程を 1 オクターブ下げる／上げる（最大 2 オクターブ）

`SHIFT` + `STEP` **15 / 16：**ルートのステップを左／右に移動します

レコーディング

いつもどおり `INST REC`

演奏したスケールの音が、各ステップの NOTE として記録されます

キーボードの設定

KEYBOARD 中に `SHIFT` + `INST PLAY`

> **Scale**
>> クロマチック、メジャー、マイナー、モード、ペンタトニック、ブルース、ビバップなど多数
>> **Chromatic：**明るく点灯しているステップが白鍵、暗く点灯しているステップが黒鍵です
>
> **Root Step**
>> 1-12。ステップ・キー上で NOTE = 0 の位置を設定します
>
> **Octave**
>> -2〜+2。範囲を超えると 0 に戻り、黄色く点灯します

Motion

↑ 目次

パターンやステップごとに、つまみの動きを記録、編集、消去したいときにお読みください。

モーションの記録と再生

パターン再生中に `MOTION (REC)` で記録
`MOTION (ON)` で再生

モーションを消去する

`CLEAR` + つまみで、そのコントローラーの MOTION データだけを消去します
`SHIFT` + `MOTION (ON)` › `A`-`H` で、そのバリエーションのモーション・データをすべて消去します

ステップごとのモーションを追加／編集する

`STEP` + `RIGHT ARROW` › `C1`-`C6` でモーションの値を変更
`STEP` を押したまま、トラック・ボタンでトラックを、`ACCENT (STEP)` でエフェクトを選びます

記録される内容

`BD`-`HT`：TUNE、DECAY、MIX、CTRL 1-3
`RS`-`RC`：TUNE、DECAY、CTRL
REVERB LEVEL と TIME、DELAY LEVEL、TIME、FEEDBACK
`MASTER FX` ON と CTRL 1-3、`ANALOG FX` ON、`FILTER` と DRIVE

ソング・モード

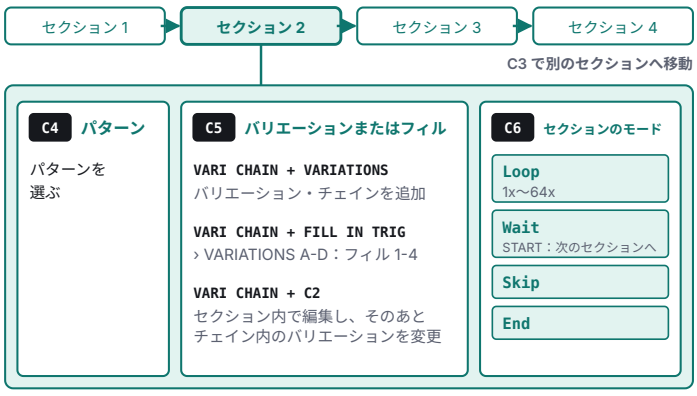
↑ 目次

パターンをつないでソングを作り、そのセクションを編集したいときにお読みください。

ソングを作る

`SONG` › `STEP` でソングを選ぶ
> `CLEAR` + `SONG` でソングを削除

`SHIFT` + `SONG` でソングを編集



バリエーション・チェインで、セクションごとに最大 16 のバリエーション／フィル

ソングの設定

`SHIFT` + `SONG`、セクションを選んで右矢印
NAME EDIT、Project Tempo（40.00〜300.00）、Tempo Source（PATTERN または PROJECT）
WRITE でソングを保存します
ソング・モード画面では、エンコーダーの機能がわかりやすく表示されます 1.50

編集機能

セクションを挿入する
> `SHIFT` + `CLEAR` で、選んだセクションの前にセクションを挿入します

セクションを削除する
> `CLEAR`

その他の編集
> `ENTER` › `C6` で選ぶ › `ENTER`
>> Copy
>> Paste
>> Double
>> Move
>> Insert
>> Clear

キットの編集

↑ 目次

キットの選択、キットの設定の編集、キットのエフェクトの設定、つまみの割り当てをしたいときにお読みください。

キットを選ぶ

`KIT` › `C6` › `EXIT`
128 キットすべてを同時に編集できます。編集中のキットにはアスタリスクが付きます

キットの設定を編集する

`SHIFT` + `KIT`

エフェクト

リバーブとディレイ
> 上段のリバーブとディレイのつまみで設定します
> **リバーブのタイプ：**AMBI、ROOM、HALL1、HALL2、PLATE、MOD
> **ディレイのタイプ：**DELAY、PAN、ECHO、PITCH
> **インストごとのセンド**
>> `TRACK` + `REVERB (LEVEL)` と `DELAY (LEVEL)` でそれぞれ設定

各インストをエフェクトにルーティングする
> `TRACK` › `SHIFT` + `(FX) ボタン` › `C4` **でルーティングを設定**
>> ANALOG
>> MASTER
>> THROUGH

外部オーディオ入力をエフェクトにルーティングする
> `SHIFT` + `KIT` › `ARROWS` で EXT IN ページへ › `C4` でルーティングを設定
> EXT IN はサンプリング、サイド・チェイン、リバーブやディレイへのセンドにも使えます

マスター `FX`
> **設定**
>> `SHIFT` + `MASTER FX (ON)` › `ENTER` › `C6` で `FX` タイプを選ぶ › `ARROWS` でページを選び、`C1`-`C6` で値を設定 › `EXIT`
> **かける**
>> `MASTER FX (ON)` › CTRL 1-3 つまみでエフェクトのかかり具合を設定
> **タイプ**
>> BYPASS、CRUSHER、`FILTER` +DRIVE、DJFX LOOPER、ISOLATOR、SCATTER、FLANGER、PHASER、SIDE BAND `FILTER`、COMPRESSOR、FET COMP 76、SDD-320、TRANSIENT、TRANSIENT 2、NOISE
> **新しい `FX` タイプ**
>> ROLL、ROLL2、REV PAN DELAY、SBF-325 1.50
>> 303 VINYL SIM、404 VINYL SIM、CASSETTE SIM、DJFX DELAY 1.20

アナログ `FX`
> **設定**
>> `SHIFT` + `ANALOG FX (ON)` › `ARROWS` でページを選び、`C1`-`C6` で値を設定 › `EXIT`
> **ルーティング**
>> `SHIFT` + `ANALOG FX (ON)` › `ENTER` で ROUTING ポップアップを開く › `C6` で `FILTER` DRIVE、`FILTER`、DRIVE を選ぶ › `EXIT`
>> `FX` **ROUTE：**MIX+ANA または ANALOG。ANALOG にすると、アナログ・エフェクトの音は AFX OUT 端子だけに送られます 1.50

サイド・チェイン
> `SHIFT` + `KIT` › `ARROWS` で SIDE CHAIN ページへ › `C1`-`C6` で値を設定 › `SHIFT` + `FX` › `ARROWS` で MIXER ページへ › `C5` で SC DEPTH を設定 › `EXIT`

キットを切り替えてもエフェクトを継続させる 1.50

> MENU › PROJECT › Keep Efx and ExtIn を ON

インストごとのリバーブとディレイのセンド・レベル

トラック・ボタン BD〜RC を押したまま、REVERB (LEVEL) または DELAY (LEVEL) を回します

Knob Assign

KNOB ASSIGN を押し、編集したいつまみを回す › ARROWS で割り当てを選ぶ › C1-C6 でパラメーター、変化量、最小値と最大値を設定 › EXIT

1 つのつまみで最大 4 つのパラメーターをコントロールできます

IFX Delay TIME をつまみに割り当てられます 1.50

インストの編集 ↑ 目次

ジェネレーター、フィルター、アンプ、コンプレッサー、エフェクト、LFO、ミキサー、保存など、音作りをしたいときにお読みください。

インストを選ぶ（INST BANK）

TRACK › INST › C4 でカテゴリーを選ぶ › C5 でフォルダーを選ぶ › C6 でインストを選ぶ › INST または EXIT

ジェネレーターを選ぶ（SELECT GEN）

TRACK › SHIFT + GEN › C4 でカテゴリーを選ぶ › C5 でフォルダーを選ぶ › C6 でジェネレーターを選ぶ › GEN または EXIT

ジェネレーターを設定する

TRACK › GEN › ARROWS › C1-C6 で値を設定

808 オープン・ハイハットなど一部のパーカッション・ジェネレーターには MUTE TRG（OFF〜RC）があり、ミュートするインストを選びます。MUTE DCY（808 オープン・ハイハット）はミュート効果の強さを調節します

8X Bass Drum と 8X Snare Drum には Mute パラメーターがあります。8X Crash Cymbal と 8X Hand Clap に Mute Trigger が追加されました 1.20

新しいインスト：909 Bass Line と 808 Bass Line 1.20、TR-8S ライブラリーの FM インスト 50 種 1.50

すべての FM ジェネレーターに COARSE 1.50

TUNE と DECAY のオフセットが GEN パラメーターに反転バーで表示されます 1.50

フィルターをかける

TRACK › FILTER › C1-C6 で値を設定

イコライザー・フィルターには SW パラメーターがあります

フィルター・タイプがグラフィックで表示されます 1.50

アンプを設定する

TRACK › AMP › C1-C6 で値を設定

GAIN は最大 24.0 dB 1.20

コンプレッサーをかける

TRACK › SHIFT + AMP › C1-C6 で値を設定

エフェクトをかける

TRACK › FX › ENTER › C6 で EFFECT を選ぶ › ENTER › C1-C6 で値を設定

タイプ：BYPASS、DRIVE、CRUSHER、FILTER、BOOST、ISOLATOR、SATURATOR、EQUALIZER、FREQ SHIFT、RING MOD、SPREAD、CHORUS、PITCH DELAY、FLANGER、PHASER、DELAY、SDD-320、FATTENER、SBF-325 1.50

LFO でパラメーターを変化させる

TRACK › SHIFT + FILTER › C1-C6 で値を設定

MODE 1.20

> **PATTERN：**パターン開始時に LFO が PHASE の位置から再スタートします
>
> **TRIGGER：**ノートが発音されるたびに LFO が PHASE の位置から再スタートします
>
> **TRIG 1X / TRIG 1/2X：**トリガーで再スタートし、1 周期／半周期で終わります
>
> **FREE：**フリー・ラン

S&H 1.20

> OFF、1/64〜3/4（階段状の LFO）、TRIGGER（ノート発音時のピーク値を保持）

新しいモジュレーション先：LAYER A と B の PAN、IFX DELAY TIME 1.50

インストを保存する

SHIFT + COPY › C6 で「INST」を選ぶ › C6 と ENTER でカテゴリーと名前を編集

ミキサーを設定する

TRACK › SHIFT + FX › C1-C6 で値を設定

REFLECT to GAIN

> SHIFT + FX › 右矢印で最後のページへ › ENTER
>
> フェーダーでレベルを設定（または C3 でトラック、C6 で音量） › ENTER › OK
>
> 表示が出たら、すべてのフェーダーを最大まで上げます

INDV OUT の設定値

> PARA、INDIV、TRIG A&B、TRIG A、TRIG B、DIR ANA8、DIR ANA9、MIX ONLY
>
> **MIX ONLY** 1.50 **：**トラックは MIX OUT だけから出力され、INDV/TRIG OUT からは出力されません

サンプリング ↑ 目次

TR-1000 にオーディオを録音する手順を知りたいときにお読みください。

サンプリングの手順

SAMPLE



> ENTER でサンプリングのトリガーを待機状態にする

サンプリングの応用 ↑ 目次

内部の音のリサンプリング、USB からのオーディオのインポート、サンプル・スロットの管理をしたいときにお読みください。

内部の音をリサンプリングする

SAMPLE › C4 BD-RC または MIX OUT

USB からオーディオをインポートする

先に TR-1000 で USB メモリー（64 GB 以下）をフォーマットします

MENU › FILE › IMPORT › USER SAMPLE › ファイルまたはフォルダー › ENTER › 読み込み先のカテゴリーを選ぶ

フォルダーを選ぶと、中のファイルを一度にインポートします

サンプル・スロット

スライスやサンプルをキットに保存するたびに、サンプル・スロットを 1 つ使います。インポートでは使いません

サンプルを使っていないプロジェクトでは最大 500 のサンプル・スロットを使えます。プロジェクト 1 は空きが 154 の状態で始まります

同時に鳴らせるステレオ・サンプルは最大 14 です。それを超えると、レイヤー A のジェネレーターだけが鳴ります

サンプルをトラックに割り当てる

↑ 目次

録音が終わり、それをトラックに置きたいときにお読みください。

録音が終わると、サンプル・エディターが表示されます

`ENTER` › `C3` で WRITE & ASSIGN を選ぶ › `ENTER` › トラック・ボタンでトラックを選ぶ › `C3` で EXECUTE を選ぶ › `ENTER`

サンプルの編集

↑ 目次

サンプルの開始点、終了点、ループ、ゲインを設定したいときにお読みください。

SHIFT + SAMPLE

`C1` サンプルの開始点
`C3` サンプルの終了点
`C5` ズーム
`C6` **その他の編集機能**
- 名前を付けて保存
- ノーマライズ
- エンファシス／エキサイター
- ゼロ・スナップ

サンプル・スロットを最適化する（SMP SLOT）

↑ 目次

使っていないスライスがふさいでいるサンプル・スロットを空けたいときにお読みください。

使っていないスライスがふさいでいるスロットをすべて空けます

`MENU` › `UTILITY` › `SMP SLOT` › `ENTER` でスロット情報を表示 › `ENTER` で最適化してプロジェクトを上書き › `EXIT`

SAMPLE GEN を設定する

↑ 目次

サンプル・ジェネレーターのチューニング、ピッチ、ループ、設定をしたいときにお読みください。

`GEN` › `ARROWS` でページを移動
`C1` TUNE（ファイン／スムーズ）
`C2` SLICE NUM で編集するスライスを選ぶ（スライス・モードがオンのときのみ）
`C3` SPEED でピッチと関係なく再生速度を設定（STRETCH オン、BPM SYNC オフが必要）
`C4` COARSE で半音単位のチューニング
`C5` BPM SYNC でサンプルをマスター・テンポに同期して再生
`C6` STRETCH でストレッチ・モードを設定

スライス

↑ 目次

サンプルをスライスに分割し、スライスの設定をしたいときにお読みください。

`GEN` › `ARROWS` で WAVE 画面へ › `C4` でスライス・モードをオン
スライス・モードは、同じ長さの 16 スライスで始まります

設定

`C1` スライスの `START`
`C2` SELECT（スライスを選ぶ）
`C3` LENGTH（スライスの長さ）
`C4` SLICE ON / OFF
`C5` **CURSOR**
- `SHIFT` + `C5` でループ再生をオン／オフ

`C6` ZOOM
`ENTER` **でその他の編集機能**
- ADD SLICE
- DELETE SLICE（`CLEAR` がショートカット）
- DELETE ALL（すべてのスライス）
- **AUTO SLICE の設定**
  - 時間で分割
  - レベル
  - トランジェント

演奏機能

↑ 目次

演奏中にモーフ・スライダー、ミュート、ステップ・ループ、キューを使いたいときにお読みください。

モーフ・スライダーの設定

`MORPH` *スライダーで、保存した複数のつまみの設定を同時に動かします*
`SHIFT` + `MORPH` › `STEP` でモーフ・スロットを選ぶ › `FX` とインストのつまみで値を設定 › `EXIT`
モーフ・スロットは 16 で、キットに保存されます
`ACCENT (STEP)` を押してから矢印で REVERB、DELAY、MFX、AFX のパラメーターへ
`MORPH` ボタンが点滅していたら、押してモーフをオンにします

トラックをミュートする

`MUTE` + TRACKS で個別のトラックをミュート／解除
`MUTE` + `CLEAR` ですべてのトラックのミュートを解除

ステップ・ループ

`STEP LOOP` *で、パターン再生中に押さえているステップを繰り返します*
`START` › `STEP LOOP` › `STEPS` で、選んだステップをループ再生します
複数のステップは押した順にループします。止めるには `STEP LOOP` をもう一度押します

キュー

CUE は選んだトラックをヘッドホンだけに送ります
`SHIFT` + `MUTE` › TRACKS：選んだトラックだけがヘッドホンから出力されます
`MUTE` で CUE をオフ

同期と外部オーディオ

↑ 目次

TR-1000 をほかの機器と同期させたり、外部オーディオを通したりしたいときにお読みください。

MIDI 機器と同期する

TR-1000 は MIDI クロック、スタート、ストップ、コンティニューのメッセージを受信して、ほかの機器に従います。送信もします
MIDI OUT を相手機器の MIDI IN に、相手機器の MIDI OUT を TR-1000 の MIDI IN につなぎます
`MENU` › `PROJECT` の Tempo Sync でクロック・ソースを選びます：Auto、`MIDI`、`USB`、INT
`MENU` › `SYSTEM` › `MIDI` の `MIDI` Out 1 と `MIDI` Out 2 は `MIDI` または DIN SYNC です。Out 2 は THRU にもできます
THRU（ハード・スルー）は、MIDI IN に届いたものをソフトウェアを通さずにそのまま出力します。TR-1000 をチェインの途中に置くには Out 2 を THRU にします
DIN sync で、ビンテージ機器と同期できます
Track Sync：All Tracks は最も正確な同期、Layered Gens は外部同期時のレイテンシーが少なくなります
Sync Delay はパターンの開始位置をずらします。-100〜+100。正の値で開始タイミングが早まります

アナログ機器と同期する

TRG IN 端子：Trig In で Sync（トリガーをクロックに）、Start（開始と停止）、Head（先頭に戻る）、Clock（トリガーごとに 1 ステップ）を設定します
Trig In Sync Clock：入力の 1 拍あたり 1、2、3、4、6、8、12、24 の同期クロック
TRG OUT 端子：TRIGGER OUT に選んだトラックがトリガーを送ります。Trig Out で Trig（トラックのタイミング）、Head または End（パターンの先頭または最後）を設定します

CLK OUT 端子：同期信号を送ります。Sync Out Clock で 1 拍あたり 1、2、3、4、6、8、12、24 を設定します

これらの端子にはすべてモノラルのミニ・プラグ・ケーブルを使います

ペダル

PEDAL 端子にエクスプレッション・ペダル EV-5、またはフット・スイッチ FS-5U か FS-6。操作先は「知っておきたいメニュー設定」を参照

外部オーディオ入力（EXT IN）

シンセサイザーやリズム・マシンを EXTERNAL IN 端子につなぎ、トラックのように扱えます

入力モード：ステレオ入力 1 つ、またはモノラル入力 2 つ（Ext In Mode）

入力をサンプリングしたり、サイド・チェインをかけたり、リバーブやディレイに送ったり、MASTER や ANALOG のエフェクトにルーティングしたり、出力先（MIX OUT またはアサイナブル出力）を選んだりできます

レベル：EXT IN つまみと、MENU › PROJECT › SOUND の Ext In Gain、Ext In Att.（出力の大きい機器では ON）、Mono1 Level、Mono2 Level、USB Level

エフェクトのルーティング：SHIFT + KIT › ARROWS で EXT IN ページへ › C4

Keep Efx and ExtIn がオンなら、キットを切り替えても外部の音は途切れません 1.50

MIDI

↑ 目次

MIDI チャンネル、モード、CC 番号、その他のメッセージを知りたいときにお読みください。

チャンネルとメッセージ

Pattern Ch 初期値 10、範囲 1-16：シーケンサーの MIDI チャンネル

Kit Ch 初期値 1、範囲 1-16：このチャンネルのプログラム・チェンジ（0-127）でキットを切り替えます

MIDI Mode：Single Ch. はすべてに Pattern Ch を使います。**Each Track Ch.** 1.20 は各トラックに個別のチャンネルを割り当てます。スライスを個別にシーケンスするときに使います。

Clock、Start、Continue、Stop：送受信します。Song Position：ソング・モード選択時に送受信します。

非対応：SysEx、Song Select、ピッチ・ベンド、アフタータッチ、Tune Request、Active Sensing、All Notes Off、Reset All Controllers。

メニューのスイッチ：Tx / Rx Program Change、Tx / Rx Edit Data (CC)、Tx / Rx Note、Rx Start Stop Cont。MIDI Out 1 / Out 2：MIDI または DIN SYNC（Out 2 は THRU も可）。Soft Through は MIDI IN を MIDI OUT に再送信します。

Single Ch. のノート・マップ

INST	メイン	レイヤー A のみ	レイヤー B と Alt.
BD	36 (C2)	35 (B1)	99 (D#7)
SD	38 (D2)	40 (E2)	104 (G#7)
LT	43 (G2)	41 (F2)	105 (A7)
HT	50 (D3)	48 (C3)	112 (E8)
RS	37 (C#2)	-	56 (G#3)
HC	39 (D#2)	-	54 (F#3)
CH	42 (F#2)	-	44 (G#2)
OH	46 (A#2)	-	58 (A#3)
CC	49 (C#3)	-	61 (C#4)
RC	51 (D#3)	-	63 (D#4)
TRG	84 (C6)	-	-

すべて MENU › SYSTEM › MIDI › Inst Note で設定できます。

Each Track Ch. のノート 1.20 1.50

		coarse 付きノート（-24〜+24）			固定ノート			スライス 1-16		
INST	Ch	メイン	レイヤー A のみ	レイヤー B のみ／Alt.	メイン	レイヤー A のみ	レイヤー B のみ／Alt.	レイヤー A+B	レイヤー A のみ	レイヤー B のみ
BD	1	16~64	65~113	-	114	115	116	-	0~15	-
	2	-	-	65~113	-	-	-	16~31	-	0~15
SD	3	16~64	65~113	-	114	115	116	-	0~15	-
	4	-	-	65~113	-	-	-	16~31	-	0~15
LT	5	16~64	65~113	-	114	115	116	-	0~15	-
	6	-	-	65~113	-	-	-	16~31	-	0~15
HT	7	16~64	65~113	-	114	115	116	-	0~15	-
	8	-	-	65~113	-	-	-	16~31	-	0~15
RS	9	16~64	-	65~113	114	-	115	0~15	-	-
HC	10	16~64	-	65~113	114	-	115	0~15	-	-
CH	11	16~64	-	65~113	114	-	115	0~15	-	-
OH	12	16~64	-	65~113	114	-	115	0~15	-	-
CC	13	16~64	-	65~113	114	-	115	0~15	-	-
RC	14	16~64	-	65~113	114	-	115	0~15	-	-
TRG	15	-	-	-	114	-	-	-	-	-

Coarse と固定ノートのグループは 1.50 の新機能です。スライスのトリガーは 1.20 の新機能です。偶数チャンネルのノート 16~31 はレイヤー A+B のスライスを鳴らします。TRG には coarse の範囲はありません。

コントロール・チェンジ（送受信）

CC	パラメーター
9	EXT IN
12 / 13 / 14	DELAY LEVEL / TIME / FEEDBACK
15	MASTER FX ON
16 / 17 / 18	MASTER FX CTRL1 / CTRL2 / CTRL3
19	ANALOG FX ON
20 / 21	FILTER / DRIVE
89	MORPH
90 / 91	REVERB TIME / LEVEL

INST	TUNE	DECAY	MIX	CTRL1	CTRL2	CTRL3	LEVEL
BD	22	23	24	25	26	27	28
SD	29	30	31	46	47	48	49
LT	50	51	52	53	54	55	56
HT	57	58	59	60	61	62	63

INST	TUNE	DECAY	CTRL	LEVEL
RS	80	81	82	83
HC	84	85	86	87
CH	102	103	104	105
OH	106	107	108	109
CC	110	111	112	113
RC	114	115	116	117